

## 「地域リーグ」30年の歴史に幕 ～ 新「地域リーグ」へ

昭和56年1月に「実業団選抜男女リーグ」として始まった「地域リーグ」も、大阪府堺市の新日鐵堺体育館において、平成22年3月13・14日の2日間に亘って行われた第30回プレーオフ大会をもって、30年の歴史に幕を閉じた。

顧みると「地域リーグ」は、実業団リーグ(1リーグ・チャレンジリーグ)、日本リーグ(リーグ・プレミアリーグ)への登竜門として開催され、男子は第3回大会から第18回大会まで東西各8チームで、女子が第17回大会まで東西各8チームの選抜出場を得て熱戦が展開された。

そして東部・西部の各リーグで勝ち抜いたチームがプレーオフに出場。ここで優勝したチームは実業団リーグに自動昇格。準優勝チームは実業団リーグ下位チームにリーグ入りを賭けて挑戦した。男子では、象印マホービン、日新製鋼、豊田合成などが、また女子ではダイエー、小田急、JT、東北パイオニアなどが最終日本リーグへと昇格しており、このリーグの所期の目標は十分に果たしてきたといえる。

その後、社会経済情勢の変化に伴って、バレーボール部を休・廃部する企業が続出したことなどもあり、第19回大会以降参加チーム数が漸減し、第22回大会からは女子は東・西での開催が困難となった。このため全国一次リーグとして開催し、その上位4チームによりプレーオフを戦うという方式となった。また、男子は東・西でリーグを開催しているものの両リーグの構成参加チーム数は減少してきた。

このような状況の中、第26回大会からは(財)日本バレーボール協会、日本実業団バレーボール連盟による主催に、日本クラブバレーボール連盟を加えて、クラブチームにも参加資格を拡げて開催してきた。

第30回という記念すべき大会も、男子は「富士通グループ長野」チーム、女子は「JAぎふ」チームが優勝して幕を閉じた。平成22年度からは新たな大会である「全国6人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会」<全国各ブロックの「地域リーグ」「東西決勝リーグ」「グランドチャンピオンマッチ」>がスタートし、これまでの地域リーグの精神はこの大会へと引き継がれることとなっている。多数のチームの積極的な参加と熱戦の展開が大きく期待される。

### 《優勝チーム》



富士通グループ 長野



JA ぎふ